

■一般用

(単位：m)

呼び径	外 径			厚 さ		参 考				価 格	
	基準外径	許容差	だ円度 (最大値)	基準厚さ	許容差	長さ (m)	内 径	重 量			形 態
								(kg/m)	(kg/巻、本)		
50	60.0	±0.30	1.5	3.5	0、+0.6	60	52.4	0.644	38.64	巻物状	
65	76.0	±0.35	1.6	4.0				0.930	4.65		
75	89.0	±0.45	1.8	5.0	0、+0.8	5	78.2	1.360	6.80	直管状	
100	114.0	±0.55	2.3	5.5				1.920	9.60		
125	140.0	±0.65	2.8	6.5				2.810	14.05		

備考(1) だ円度は、任意断面の最大外径と最少外径との差から求めます。ただし、直管だけに適用し巻物状については、参考とします。

備考(2) 内径は、基準外径及び中心厚さから計算した値です。

備考(3) 質量は、管の参考内径と外径の基準値から、管に使用する材料の密度を0.960g/cm³として計算したものです。

■ポリエチレンの主要物性

項 目	単 位	試験方法	1種管	2種管
密 度	g/cm ³	JIS K 6922-2	0.910~0.942未満	0.942以上
吸 水 率	%	JIS K 7209	0.03以下	0.03以下
引 張 降 伏 強 度	MPa	JIS K 7161	9.8以上	19.6以上
引 張 伸 び	%	JIS K 7162	350%以上	
曲 げ 強 度	MPa	JIS K 7171	9.8以上	19.6以上
M R S	MPa	ISO 1167-1, 2 9080, 12162	5	8
熱 伝 導 率	W/m·k	JIS A 1413	0.34	0.46~0.50
線 膨 張 率	10 ⁻⁵ /°C	JIS K 7197	16~18	11~13
比 熱	J/g·°C	JIS K 7123	2.3	2.3
ビカット軟化温度	°C	JIS K 7206	90以上	115以上
脆 化 温 度	°C	JIS K 7216	-70°C以下	-70°C以下
E S C R	時間	ASTM D 1693	>1000	>1000

*上記の数値は測定値であり性能を保証するものではありません。

■ポリエチレンの耐薬品性

薬 品 名	温度°C		臭い 移行	薬 品 名	温度°C		臭い 移行	薬 品 名	温度°C		臭い 移行	薬 品 名	温度°C		臭い 移行
	20	60			20	60			20	60			20	60	
酸及び酸性薬品				アルカリ				有機溶剤				ガ ス			
塩酸 35%	◎	◎		アンモニア水溶液	◎	◎		エチルアルコール 40%	◎	◎		亜硫酸ガス	◎	◎	
硫酸 60%	◎	◎		苛性ソーダ	◎	◎		" 95%	○	○		炭酸ガス	◎	◎	
" 98%	○	×	※	水酸化カリウム	◎	◎		メチルアルコール	◎	◎		天然ガス	◎	◎	
硝酸 25%	◎	◎		水酸化カルシウム	◎	◎		アセトン	○	×	※	一酸化炭素	◎	◎	
" 50%	○	×	※	水酸化カルシウム	◎	◎		アニリン	○	×	※	塩素ガス	×	×	※
" >50%	×	×	※	塩 類				ベンゼン	×	×	※	そ の 他			
リン酸 50%	◎	◎		重クロム酸カリウム	◎	◎		四塩化炭素	×	×	※	植物油	◎	◎	※
酢酸 60%	◎	◎		過マンガン酸カリウム	◎	◎		クロロホルム	×	×	※	写真現像液	◎	◎	
氷酢酸	○	○	※	炭酸カルシウム	◎	◎		二硫化炭素	×	×	※	海水	◎	◎	
クロム酸	◎	◎	※	塩化第二鉄	◎	◎		アセトアルデヒド	○	×	※	ガソリン	○	×	※
干酸<80%	◎	◎		塩化バリウム	◎	◎		エチルエーテル	×	×	※	灯油	○	×	※
シュウ酸	◎	◎		硫 安	◎	◎		グリセリン	◎	◎		尿 素	◎	◎	
乳 酸	◎	◎		過酸化水素水 10%	◎	◎		ホルマリン 40%	◎	◎		白蟻駆除剤	×	×	※
オレイン酸	○	×	※	" 30%	◎	◎		トルエン	×	×	※				
マレイン酸	◎	◎		" 90%	◎	×	※								

摘要 ◎:使用可、○:若干の腐食はあるが、注意すれば使用可

×:使用不可 ※:臭いが移行する

■取扱の注意事項

(1)運搬・保管

運搬、保管の際は、管に傷をつけないように取り扱いには注意して下さい。管に傷がつくと所定圧力以下で破裂したり、寿命が短くなります。

(2)埋戻し

埋戻しには石やコンクリートの破片などを含まない良質土を用いて下さい。

(3)継手の接続

継手など接続する場合は、管にネジレ等を与えないようにして下さい。また、その重量による影響をポリエチレン管側に与えないよう配慮して下さい。

(4)火気

管付近での火気使用は行わないで下さい。火災の恐れがあるばかりではなく、管の変形や材質の劣化を引き起こします。

(5)石油類・有機溶剤

石油類、有機溶剤等で土壌の汚染が予想される場所では、迂回配管等、管の汚染防止対策を行って下さい。管が侵され水質に悪影響を及ぼします。